100th Anniversary

創立100周年記念誌

谷田製菓株式会社

13 歳で栗山町へ移住
きびだんごの生みの親

創業者　谷田　可思三

栗山町議会議長や
栗山ロータリークラブ会長なども務めた

二代目社長　谷田　涼一

INDEX

小史　谷田製菓株式会社 100 周年記念誌
発刊にあたって――― 2P
代表取締役社長　谷田　進太郎

Ⅰ　淡路島から栗山へ、足跡を振返って――― 3P

Ⅱ　思い出の写真集――― 6P

Ⅲ　資料集――― 14P

1. 谷田製菓の創業から 100 年までの歴史
及び社会ニュース――― 15P

2. 自社商品の歴史――― 16P
歴史を感じる懐かしのパッケージや
商標登録証など

3. 広告・メディア関係――― 22P
（広告・TV 放映・出版物など）

4. きびだんごまつり――― 27P
工場見学やイベントでの様子をレポート

5. きびだんご Q&A――― 29P

谷田製菓・製品ラインナップ――― 31P

谷田製菓の道しるべ――― 32P
代表取締役社長　谷田　進太郎

小史「谷田製菓株式会社 100 周年記念誌」
発刊にあたって

代表取締役社長　谷田 進太郎

谷田製菓株式会社は、1913 年（大正 2 年）に水飴の製造販売の個人商店として出発、本年 4 月に創立 100 周年の節目を迎えることが出来ました。これもひとえに当社を支えて下さったお客様、従業員、協力会社の皆様からのご支援とご指導の賜物と心から感謝申し上げる次第です。

先々代が創案した「大甞飴」と「日本一きびだんご」は、原材料も製法も昔と変わらず創り続けております。この懐かしい味わいが親から子へと受け継がれ、時代を超えてロングセラーとなりました。特別な宣伝はしていませんが、これからも皆様に安心しておいしく召し上がっていただけるよう努力してまいります。

この記念すべき100年の節目に、我が社の少史を簡単にまとめた記念誌を創りました。御笑覧いただければ幸いです。

工　場
昭和20年代に建築された煉瓦造りの工場
敷地のすぐ目の前を走るのは JR 室蘭本線

Ⅰ　淡路島から栗山へ、足跡を振返って

淡路島の黒岩水仙郷に咲く 500 万本の水仙

明治31年に兵庫県淡路島を後にして 一族は新天地、北海道栗山町へ移住

淡路では代々醸造を生業とする家柄だった

兵庫県淡路島、現在の南あわじ市出身の谷田家は、先祖代々醸造に関わる仕事に従事し、主に味噌や醤油づくりを行う者が多くおりました。

淡路島からの移民というと、映画「北の零年」でもモデルとなった静内町への移民団が有名ですが、温暖な淡路島から、荒野の広がる北の大地での暮らしは、どれほどの苦労があったことでしょう。

谷田一族が北海道への移住を決意した頃には、こうした先人達のおかげで、町や村は次第に整備され、道路や住まいに困るようなことは余りありませんでした。

創業者の谷田可思三は 13歳の移住者として栗山へ

谷田製菓の創業者である谷田可思三は、1885年（明治18年）生まれ。1898年（明治31年）に13歳で、叔父の谷田清次郎、その弟で父の斎七らと共にウエンベツ、現在の栗山町錦に土地を求めて家業の味噌醤油造りを始めました。

この時、わずか13歳の少年でしたが、工場の下働きとして精を出し、醸造技術を学ぶ姿勢は大変熱心でした。この間にかまどの作り方、豆の煮方、麺の作り方などを習得し、その後のきびだんごの創案につながる基礎知識を、自然と身につけて行ったのです。

▲谷田池と名付けられた池が残されている
（南あわじ市志知北）

▲一族・谷田重夫居住の土壁（移民当時のまま）
（南あわじ市志知北）

栗山が育んだ「日本一きびだんご」は北海道から全国へ、そして樺太でも愛された

大正２年に志しを立て菓子商への第一歩を踏み出す

本家の谷田清次郎のもとで企業精神を鍛え上げた谷田可思三は、1913年（大正２年）に水飴の製造を家業として独立しました。

1915年（大正４年）の大正天皇即位式の大嘗祭に因み、「大嘗飴」を発売した時には、その後の谷田製菓の足がかりを作るようなヒット商品となりました。

さらに、1923年（大正12年）には、「日本一きびだんご」を考案。菓子問屋様を通し全国、樺太までも販路が拡大して行きました。

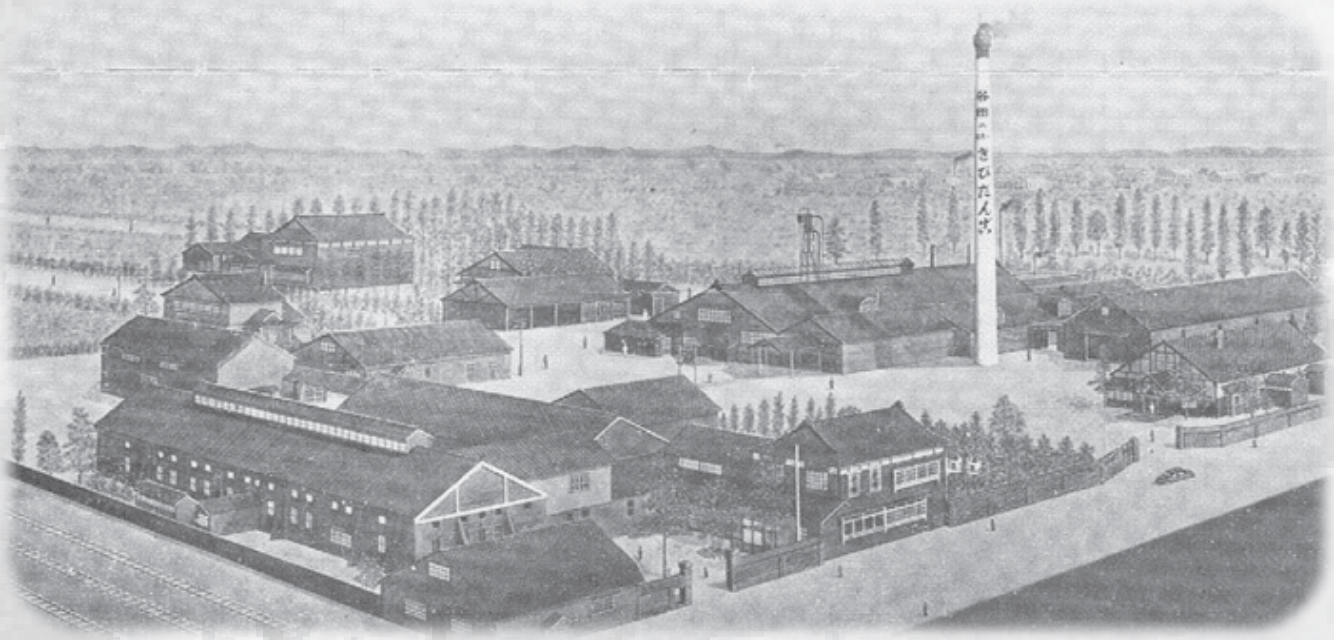
谷田家本家の谷田清次郎は、馬産も手がけ牧場を所有するなど栗山町▶に貢献した。大正８年11月16日頌徳碑の前で（66歳当時）。現在、この碑は栗山町の本門寺境内にある

産業のバランスがとれた自然が広がる住み良い町「栗山」

母なる川、夕張川の流れる栗山町は、小さい町ながら、商業、産業、工業のバランスのとれた住み良い町です。里山の自然にも恵まれ、オオムラサキという美しい蝶の北東限でもあります。最近では、同じ名前が縁で交流を続けて来た、日本ハムファイターズの栗山英樹監督の住まいとしても知名度を上げています。

▲桜や紅葉の名所「栗山公園」は町民の憩いの場

Ⅱ　思い出の写真集　大正・昭和・平成

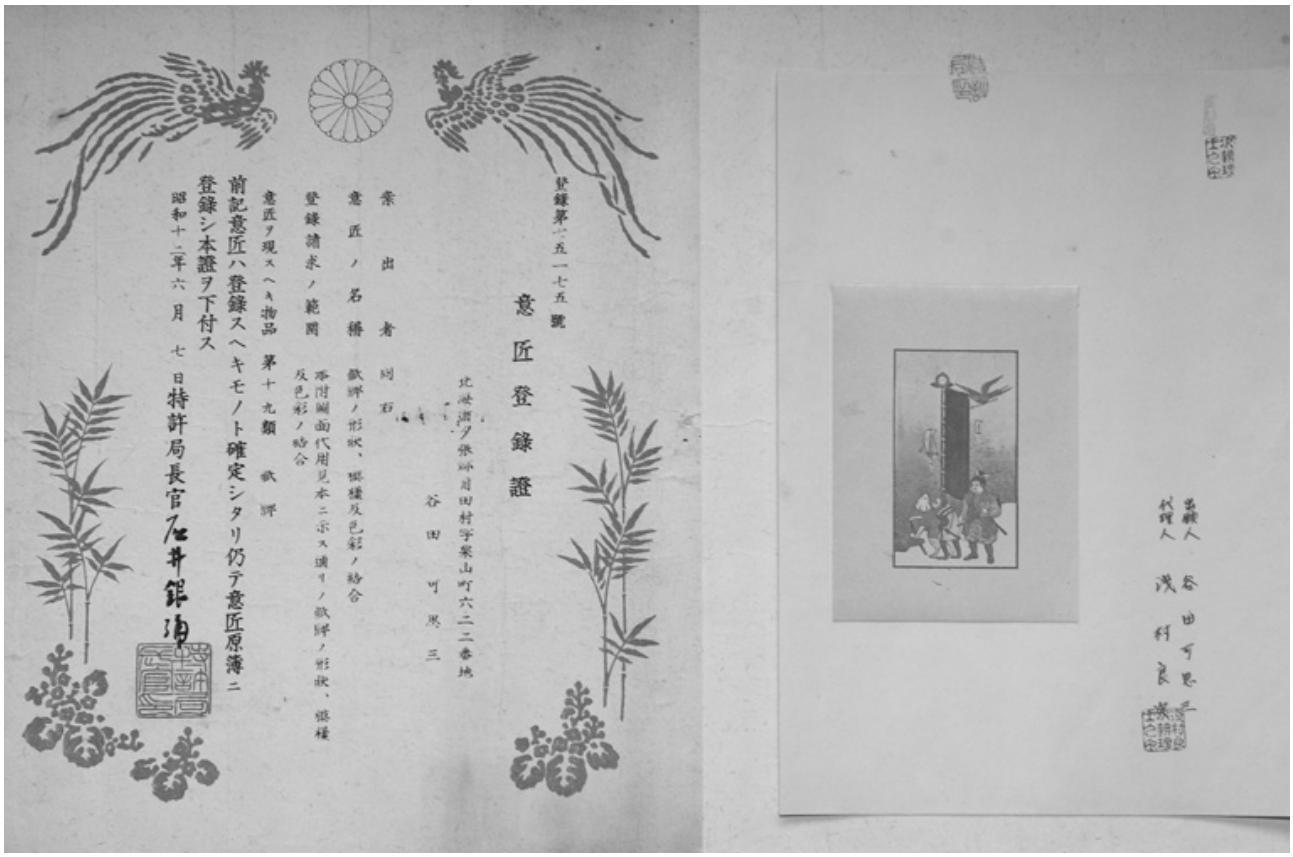


昭和 30 年代当時の本社工場　大きな煙突がまちのシンボルだった

「大甞飴」の商標登録証／日付は大正９年４月19日　番地は石狩国夕張郡角田村字栗山

第一二四七三六號
商標登録證
北海道石狩國夕張郡角田村
字栗山百十三番地
谷田可思三
特許
特
大甞飴
谷田製飴場謹製
前掲商標ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト
査定シタリ仍テ商標原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ
下付スルモノ也
大正九年四月十九日
特許局長
中井勇作

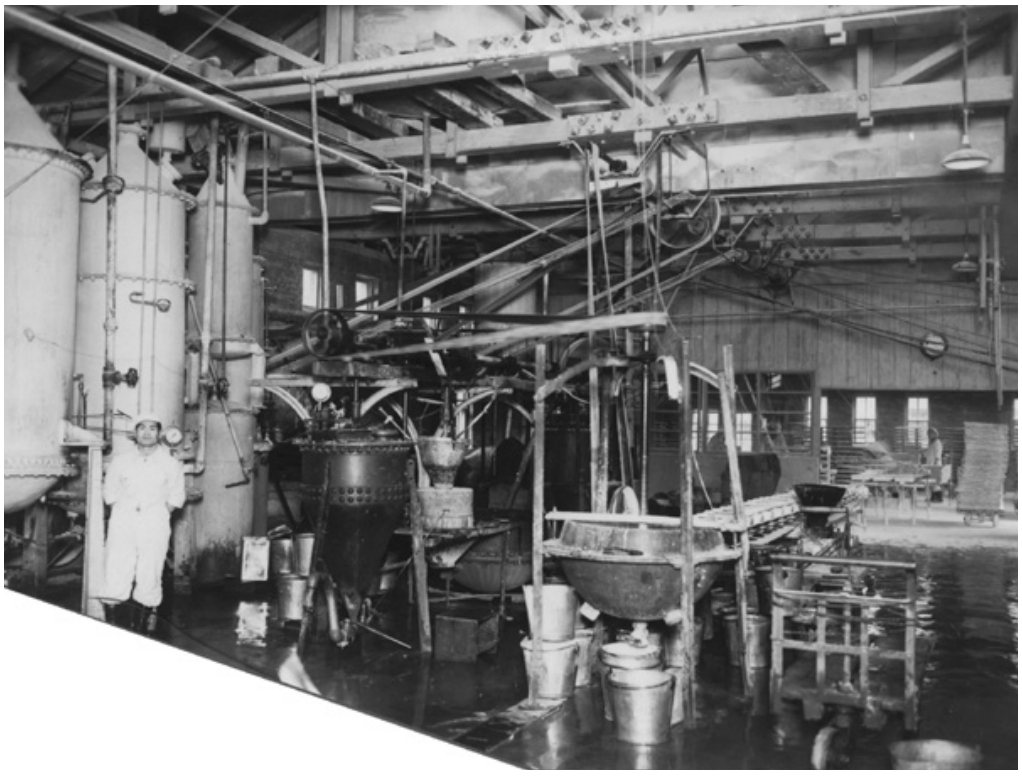
「きびだんご」の商標登録証／日付は昭和12年６月７日


登録第六五一七五號
意匠登録證
北海道夕張郡角田村字栗山町六二二番地
谷田可思三
出願者
意匠ノ名稱
登録請求ノ範圍
意匠ヲ現スヘキ物品
第十九類
前記意匠ハ登録スヘキモノト確定シタリ仍テ意匠原簿ニ
登録シ本證ヲ下付ス
昭和十二年六月七日
特許局長官石井錦作

◀谷田製菓の最盛期、昭和20年代の工場と煙突。この周辺には、いつも甘い香りが漂っていた

◀駅のホームに設置された「きびだんご」の広告。木造作りの駅舎で蒸気機関車が走っていた時代

◀出来上がったきびだんごを手作業で包装していく。出荷に追われながらも工場は活気づいていた（昭和20年代）



◀きびだんご工場の内部。中央にあるのは、きびだんごを作るための特注の大窯（昭和20年代）

◀1950年（昭和25年）に開催された物価庁主催による「第八回全国優良物資交流展示会」での谷田製菓の展示

▲谷田製菓創業40周年記念として、登別温泉で「優良特約店感謝祭」を開いた。1953年（昭和28年）

▲1942年（昭和17年）に、菓子問屋有志によって建てられた、創業者・可思三の銅像。そのとなりに妻おくのの功績が讃えられ、1954年（昭和29年）銅像の除幕式となった

マルS

桃太郎の幟や工場の屋根に乗る鬼瓦、社名のトレードマークに使われていた○にSは創業者谷田可思三の父斉七のエスではないかと言われている。

◀今も場内の庭の中で、静かにきびだんごの生産を見守る夫妻の像。その碑名には、創業者の父の遺訓「汝小利口たるなかれ大いなる馬鹿となれ」とある。「日本一きびだんご」は、黙々と己の道を歩いた一人の努力家によって生み出されたものである

◀古き良き昭和の時代。まだテレビがなかった頃には、谷田製菓では、子ども向けに桃太郎の「おみやげ車」が移動式宣伝カーとして活躍した

「日本一のきびだんご」をほおばり、紙▶芝居を楽しむ子どもたちの笑顔は、企業の原動力でもあった

Ⅲ 資料集

沿革

自社商品の歴史

広告メディア関係

特約店有志より寄贈された創業者夫妻の銅像

●谷田製菓のあゆみ		●世の中の出来事
	1912年（大正元年）	明治天皇没、大正天皇が即位
谷田可思三、現在地において個人創業	1913年（大正２年）	
	1914年（大正２年）	第一次世界大戦勃発
大正天皇の大嘗祭にちなみ「大嘗飴」と命名し、創製する。	1915年（大正４年）	中国に21か条の要求を出し満州へ手を延ばす
	1918年（大正７年）	富山に米騒動が起こる。原内閣設立
第一次世界大戦が終結。平和を記念して「平和糖」を製造販売する	1919年（大正８年）	パリ講和会議
	1920年（大正９年）	国際連盟に加入し、常任理事国になる
	1921年（大正10年）	ワシントン軍縮会議に出席
「日本一きびだんご」を考案し、販売する。名前の由来は、北海道開拓の精神と関東大震災の復興を願い命名	1923年（大正12年）	関東大震災が発生する
	1925年（大正14年）	普通選挙法が成立
	1926年（昭和元年）	大正天皇没、昭和天皇が即位
工場を造築し、販路を拡大する	1928年（昭和３年） ～ 1935年（昭和10年）	
	1931年（昭和６年）	満州事変が起こる
	1932年（昭和７年）	五・一五事件が起こる
	1936年（昭和11年）	二・二六事件が起こる
	1937年（昭和12年）	日中戦争が起こる
	1939年（昭和14年）	第二次世界大戦が始まる
海軍々需部納入のため兵庫県大山村に工場を設置	1940年（昭和15年）	
	1941年（昭和16年）	太平洋戦争が起こる
陸軍部隊納入のため北支天津（現在の中国・天津市）に工場を設置	1942年（昭和17年）	
太平洋戦争の終結により兵庫と天津の両工場は閉鎖	1945年（昭和20年）	広島・長崎に原子爆弾投下。太平洋戦争終結
法人組織として社名を「谷田製菓株式会社」と改める	1949年（昭和24年）	
第一工場を改築する	1953年（昭和28年）	テレビ放送が始まる
二代目社長に谷田涼一就任	1960年（昭和35年）	
谷田製菓創業50周年を迎える	1963年（昭和38年）	
	1964年（昭和39年）	東京オリンピックが開催される
新規事業として「谷田のとうふ」発売	1965年（昭和40年）	
「一口きびだんご」発売	1971年（昭和46年）	
	1972年（昭和47年）	沖縄諸島が日本に復帰する
	1989年（平成元年）	昭和天皇没、平成と改元
	1995年（平成７年）	阪神淡路大震災が起こる
三代目社長に谷田進太郎就任	1998年（平成10年）	
「くりやま老舗まつり（きびだんご祭り）」に初参加	1999年（平成11年）	
	2001年（平成13年）	アメリカで同時多発テロ事件が起こる
	2011年（平成23年）	東日本大震災が起こる
谷田製菓100周年を迎え記念誌を発行	2013年（平成25年）	

懐かしいパッケージとともにいつまでも愛されて「大嘗飴」と「日本一きびだんご」はもうすぐ100歳！

▲発売当時の「大嘗飴」の包装紙。天使が天与の賜物とばかりに飴を抱えている

ほんのりとした優しい甘さの「大嘗飴」は、天皇の即位の儀式「大嘗祭」に因んで命名されました。水飴を主原料とするため夏の高温には不向きで、発売当時から今も変わらず冬期限定販売。そこで夏の暑さ、冬の寒さにもにも強く、長期保存しても変質しないお菓子として考案されたのが「日本一きびだんご」です。菓子でありながら時には食事代わりにもなり、大人にも子どもにも、ご年配の方にも喜ばれるものを目指しました。

▼現在の包装紙。時代が巡り懐かしい味わいが人気再燃。昔のままのレトロなデザインも人気の秘密

大正12年に創製し、名前を考えていたおり、手元にあった桃太郎の絵本を見て、また関東大震災の復興を北海道開拓時代の助け合いの精神で努めてもらいたいと「起備団合」という字を当て販売。

パッケージを飾った歴代桃太郎たち（順不同）。よく見ると顔の描き方に当時の流行が伺えます。現在おなじみの桃太郎のイラストは、紙の色を黄色や銀色に変えながらも、昭和40年前後から半世紀近く使われ続けている谷田製菓のマスコットです。

「桃太郎さん、お腰につけたきびだんご、一つ私にくださいな」

大嘗飴、きびだんご、もちあめ（昭和30年代頃）
甘いお菓子が昭和の子どもたちの心を優しく満たした

谷田の
きびだんご
YANIDA
SEIKA
谷田のきびだんご
谷田のきびだんご
谷田のきびだんご

昭和30年代後半ぐらいから新しいお菓子、今で言う「スナック菓子」が続々と出てきて、伝統的なお菓子が売れなくなりました。「大甞飴」は７シーズン程製造を休みました。

会社存亡の危機に当たり、二代目谷田涼一は事業の多角化を検討し、市場調査の結果、豆腐の製造に活路を見い出しました。

いまでは当たり前のパック詰めの豆腐です。時代のニーズに合い販路を拡大しました。

以後「きびだんご」の冬の時代に会社を支えてくれました。そのほか「えのきだけ」などのキノコ類の製造もおこなっていました。

平成に入り「豆腐類」は専門の豆腐メーカーが伸びだんだんと販路が少なくなりました。

しかし同時に「きびだんご」が自然の原料を使っている事や素朴な味わいなどから見直され、徐々に販売が伸びてきました。

そこで平成10年から翌年にかけ食品部門を廃止し、菓子専業にもどりました。食品部門の従業員には退職してもらい、辛い決断でした。

平成10年に涼一の長男、進太郎が社長に就任しました。

原材料はもち米、水飴、砂糖、あんの４種類。もち米を餅状にし、あんと水飴、砂糖を練り合わせて、型に流し込んでゆっくりと冷やす。シンプルでありながら配合や練り合わせるタイミングには技術が要ります。

「日本一きびだんご」の新聞広告の中に当時の消費者の姿や社会風俗が読み取れる

▲1956年（昭和31年）に公開された美空ひばり主演映画「宝島遠征」。「日本一きびだんご」の包紙２枚で優待料金で映画が観られるというユニークな企画

今から50年以上も前の谷田製菓の新聞広告。当時のトップスター美空ひばり主演の活劇映画が公開され、テレビ普及以前の庶民の娯楽であったことが伝わります。その下の新聞広告では、紙カブトの男の子がうれしそうにきびだんごを手にしています。宣伝文句には、営農家の方々への労いの言葉と商品セールスが書かれ、子どものオヤツばかりでなく、農作業のお供として当時の定番だったことを物語っています。

「全国菓子博覧会」で優秀な菓子に贈られる「大臣賞」を受賞！

全国菓子大博覧会の歴史は古く、1911年（明治44年）に東京で開催された「第１回帝国菓子飴大品評会」に始まります。かつて「日本一きびだんご」の包装紙に書かれていた“大臣賞受賞”とは、この博覧会での栄誉ある受賞のことです。掲載資料は、戦争で中断していた同博覧会が、全国のお菓子屋さんの熱意で復活した第12回開催1952年（昭和27年）での会場写真と新聞記事です。この博覧会は、ほぼ４年に１度開催されています。

（2）（第三種郵便物認可）（昭和廿七年五月廿日ノ一日）菓子飴新聞（土）（第二八二五号）（復活第九四一号）

名誉金賞牌受賞者

菓子博審査の結果名誉金賞牌は次の五十五点に授与された。

名誉金賞牌（五五点）

第一類（一三点）

椿軍爽竹永正男広島、同亀屋三宅定由、同煉羊羹安部栄之助島根同、石村一郎東京、引菓子越川台次郎神奈川、軽美鹿児島商業協組鹿児島、武菓子日本製菓学校東京、古都の初夏今岡八郎大阪、武菓子大林武福岡、武菓子森八石川、関の蔵和田茂同、うすぎぬ三井満寿

グラフニュース

去る五月三日名古屋菓子問屋組合の運動会が天神山ホッケー場で開催された。写真は当日の本部（右武藤理事長、左杉本元一氏）

福岡

第二類（八点）

鉢の木石川久貞群馬、スポー新井製菓長野、白雪高木芳王同、深雪ほり屋新潟、松露宮脇惣太郎京都、八橋屋三宅定由同、井筒本舗同、天狗おこし前田安祐大阪　文且濱日高一好熊本

第三類（四点）

カステラ井上安雄長崎、同泉栄太郎同、同白水堂大阪ピラミッドケーキ広田定一兵庫

第四類（一点）

チョコレート　ロータリー製菓東京

第五類（七点）

菊水田中金治兵庫、味の司奥山雅麟東京、福丸煎餅大六屋長和吉蔵大阪、浪花の者友成兼吉同、ビスケット川滝沢清一東京、寿小山正次東京

第六類（一一点）

みりん焼茶三味小中一郎岐阜、羽衣熊谷次郎神奈川、かりん糖清野義太郎群馬、揚おかき仙波清太東京、京角小森幸雄神奈川、江戸ッ子岩瀬重雄東京、大関荒川真雄愛知、京千鳥西村忠兵衛京都、丸美の石戸谷親一大阪、福寿巻久米佐市大阪

餅ボール植垣俊雄兵庫

第七類（三点）

甘納豆浅川物産KK東京、アルプス豆アルプス豆本舗岐阜、斗大納豆小中力愛知

第八類（七点）

朝鮮飴園田寛熊本、キャンデー大長製菓大阪、トキワヤのドロップストキワヤ製菓、もちあめ谷田製菓北海道、チョコレートミルクキャラメルマコロン製菓愛知、きつばゼリーみの幸製菓同、キャラメル松尾製菓福岡、

第九類（一点）

九重九重本舗村沢宮城

全菓博余話

「第十二回全国菓子博」、三〇日を以て閉幕となる。従来二ケ年以上の準備期間を要して開かれたものが、一ケ月足らずで初日（〇日）の「蓋あけ」迄にマンメ上げた主催者各役員諸氏

インディアンキャラメル
即決景品付
ホームランダービー
1箱10個
名古屋市港区稲永町2-63
宝食品工業株式会社

駄菓子ブームに乗って帰って来た「大嘗飴」

お菓子の多様化で昭和40年代には７年間ほど休眠していた「大嘗飴」。1975年（昭和50年）からお歳暮の時期だけでもと生産すると、駄菓子ブームに乗って見事に復活。長く守り続けられて来たエンゼルの包装紙は現在へと受け継がれ、新たな価値を生み出しています。

新聞　昭和61年（1986年）12月1日（月曜日）

「きびだんご」の谷田製菓 健在　栗山

今"静かな駄菓子ブーム"

どっこい生きてた大嘗飴

大正のデザインで50年から見事復活

飴挽き機が忙しく回転し、水飴が真っ白いタン切りあめに

月曜ルポ

大嘗飴

昭和61年に掲載された北海道▶新聞記事

観光地やイベント会場などで観られる企業広告。昭和20年代～40年代にかけて、谷田製菓の商品広告が様々な場所で見ることができました。

昭和のレトロブームに乗って お菓子の出版物に登場

時代の荒波にさらされながら、ロングセラーと呼ばれるお菓子があります。その中のひとつとして、「日本一きびだんご」が紹介されました。長く受け継がれるお菓子とは、飾りすぎないシンプルなものが多く、そして伝統をとても大切にしています。北海道の伝統菓子として平成を生きる「日本一きびだんご」の役割を再認識するような内容です。

（上）「昭和のお菓子」玄光社 2013年２月27日発行、（下段左）「ほっかいどうお菓子グラフティー」亜璃西社 2012年１月26日発行、（下段右）「スロウ19号-おやつの時間-」2009年５月25日発行

！カミングアウトバラエティ！「秘密のケンミンSHOW」で「谷田の日本一 きびだんご」が紹介されました。

（2008年２月７日放送／日本テレビ系）

●主な放送内容／『きびだんご』と言えば岡山県の名物で、桃太郎の昔話でおなじみですが、白くて丸い形が一般的です。しかし、北海道民にとってのきびだんごは、なんと茶色くて四角い（細長い長方形）ものがメジャーだといいます。そのきびだんごの製造元は北海道夕張郡栗山町にある「谷田製菓」。どうやらきびだんごという名称は、商品が出来上がったあとに考えていたら桃太郎の絵本が近くにあったから、というからなんとも驚きです。このきびだんごは北海道内ではお年寄りから幼い子まで、かなり広く親しまれているようです。

「放送終了後は問合せが殺到し、テレビの宣伝効果に驚きました」（谷田進太郎／談）

毎年４月中旬に開催される「きびだんごまつり」では試食や工場見学などで１万人以上の来場者を迎えます

「くりやま老舗まつり」とは、同時開催される小林酒造様の「北の錦酒蔵祭り」と当社の「きびだんごまつり」の総称です。

◀お祭り開始直後の会場。小林酒造様の声かけでスタートしたお祭りで、1999年の第１回目から年々来場者が増え続け毎年たくさんの人出でにぎわう

▲工場見学は長蛇の列

谷田製菓の横を走るアンダーパスと周辺道路では都市のような交通渋滞。ふだんの栗山では見られない光景▲

▲物産コーナーも大人気！「日本一きびだんご」をはじめ、栗山町のお菓子も販売

◀「日本一きびだんご」の長年変わらぬその製法を見学通路から見ることができる。一本物のきびだんごは全て手作業による包装。見学者が目を見張るのはそのスピードと正確さ。近ごろ珍しくなった職人技に子どもたちは大喜び

桃太郎をはじめたくさんの顔▶ハメが並んで記念写真の撮影。子どもたちが大好きな「桃太郎」の物語とともに、すてきな思い出になりますように

Q なぜ『きびだんご』という名前なのですか？

当社のきびだんごは大正12年に作り出したもので、関東大震災の復興を願い、さらに北海道開拓時の助け合う気持ちをこめ、「起備団合」という名前をつけ発売しました。そして、今でいうキャラクターに桃太郎をつかった訳です。形は生産しやすいという事もあり、長方形にしました。

Q 母は、子供の頃から谷田のきびだんごが大好きだったと、よく言っています。谷田さんではこのきびだんごをいつ頃から作っているのですか？

きびだんごの製造が始まったのは、大正12年ですから、お母様のお母様にも懐かしい食べ物かと思います。きびだんごの製造より先には、大正４年に大正天皇の大嘗祭にちなみ「大嘗飴」を作り販売し、大正８年10月には第一次世界大戦終了に当たり平和を記念して命名した、「平和糖」を発売しました。「大嘗飴」は冬季限定で今もかわらずご賞味いただけます。そして平成８年３月「きびだんご物語牧場編：メロンチック編」の発売を開始しました。

Q 部屋の温度によって、硬さが随分違ってくるのですが、何故ですか？

きびだんごの材料には自然の食品しか使用していないため、もち米と水飴が温度が低いと硬くなり、高いと柔らかくなります。もし硬くなっていたら、少し暖めるか、日の射す窓辺においてみて下さい。

Q 私の会社では、社員用にきびだんごを用意しています。みんな毎朝いくつかポケットに入れて現場に向かいます。食事をする間が無い時や、夕方に食べているようで、おなかの持ちがいいと、好評です。なぜきびだんごはおなかの持ちが良いのですか？

おなかの持ちがいいのは、もち米を使って作っているので、ごはんやおもちと同じ理由だと思います。その昔、桃太郎が鬼せいばつに鬼ケ島へいった時の勇気の源ですから、元気に遊んだ後のお子さんに、働く皆さんに、ご家庭のおやつに、と是非ご利用いただきたいと思います。

Q『きびだんご』を非常用の食糧としてリュックに詰めています。どのくらいの間隔で入れかえると良いでしょうか？

当社のきびだんごは日持ちがしますが、4.5ヶ月ぐらいで、念のため点検して下さい。硬くなったのは、暖めれば柔らかくなります。

Q原材料に書いてある、麦芽水飴というのは 通常の水飴とどのように違うのですか？

でんぷんから水飴を作る過程で、糖化という事をしますが、その時に麦芽を使います。きびだんごの色はこの麦芽水飴と生あんの色、そのままの天然色です。

Q友人宅へ訪問する際のお土産にしたいのですが、箱づめされたきびだんごというのは無いでしょうか。？

広く流通には乗せてはいませんが、当社のある栗山町とごく一部で販売しています。720円と1,440円（いずれも税別）の詰め合わせをお造りしています。お問い合わせ、ご利用の際は下記までお申し付けください。
（送料は別途申し受けます。）
TEL　０１２３－７２－１２３４
FAX　０１２３－７２－１２３５
E-mail　momotaro@kibidango.co.jp

Qきびだんごは透明な紙でくるまれていますが、そのまま食べてもよいのですか？

きびだんごを直接つつんでいる、半透明なものの事でしたら、紙ではなく、オブラートですので、そのまま召し上がっていただくようになっています。

一口きびだんご

きびだんご物語
メロン編

一本物きびだんご
100年パッケージ

きびだんご物語
牧場編

大賞飴
【冬季限定発売】
11月～１月製造

ひと口大賞飴
【冬季限定発売】
11月～１月製造

ひと口大賞飴進物
【冬季限定発売】
11月～１月製造

代表取締役社長　谷田 進太郎

新しいお菓子が次々と世に出て行く時代。我が社もお客様のニーズに合わせてきびだんごに新しい味も出しました。けれども売れ筋は大正からの伝統的な味です。これからもバリエーションの開発は続けてまいりますが、きびだんごから離れた商品を作ることは考えておりません。北海道の代表的なお菓子として、ひとつ一つに愛情をかけて皆様に末永く愛されるお菓子造りを続けて行きたい考えております。今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

谷田製菓株式会社
北海道夕張郡栗山町錦3丁目134番
電話0123-72-1234　FAX0123-72-1235
HPアドレス／ momotaro@kibidango.co.jp
発行　2013年6月31日

100th Anniversary

創立100周年記念誌